

アメリカ合衆国における障害のある大学生の支援

—マーレイ州立大学における SDS の取り組みから—

中村 順子¹⁾・浦林 寛英²⁾・中島 育美³⁾・水内 豊和⁴⁾

Topics in the support for university students with
special needs in the United State

-The support service about SDS in Murray State University-

Junko NAKAMURA, Hirohide URABAYASHI,
Ikumi NAKAJIMA & Toyokazu MIZUUCHI

摘要

わが国における大学等の高等教育における発達障害傾向のある学生に対する支援は始まったばかりであり、また、これまでカウンセリングが中心となっている。平成23年度より、大学入試センター試験において、発達障害学生が受験する際の合理的配慮が公的に保障されるようになったため、今後の大学における発達障害学生への支援については、質的にも数的にもさらなる充実した取り組みが必要になると考えられる。

本稿では、発達障害学生に対して、障害者支援に関する法的整備、医療との連携を踏まえた上での根拠のある支援を継続してきているアメリカ合衆国の例をもとに、わが国の高等教育における今後の発達障害学生への支援のあり方を検討した。

キーワード：発達障害、高等教育、障害学生支援、2E、学生メンター制度

keywords：Developmental Disorder, Higher Education, Support for Students with Special Needs, Twice Exceptional (2E), Project Mentor Program

I. はじめに

わが国の後期中等教育ならびに高等教育における学生の抱える問題への対応については、欧米諸国に比べて立ち遅れていた。近年、大学では発達障害傾向のある学生に向けて、保健センターや学生相談センターのような機関が中心となって支援を行っているものの、学業上の支援は一般的ではなく、カウンセリング等、メンタル面での支援が中心となっている（小山，2009；斉藤，2008ほか）。

文部科学省の調査によれば、小学校・中学校の通常学級の6.3%に発達障害傾向の児童・生徒が在籍していると確認されている。高等学校への進学率が98%を超えている現在、発達障害の疑われる生徒の多くが高等学校にも在籍しているはずであるが、

高等学校においては、いまだ発達障害生徒への支援が話題になることは少なく、また小・中学校と比べると、特別支援教育体制の整備に関して遅れも目立っている。文部科学省では平成17年より、高等学校における発達障害生徒への「研究開発学校制度」を実施し、研究開発課題を設定し研究に努めてきたが、これには、2007年より特別支援教育が制度として走り出し、とりわけ通常学級における特別支援教育が本格的にスタートしたことの影響が大きい（藤岡，2009）。そして、平成23年度より、ようやく大学入試センター試験において発達障害学生への配慮が開始されることとなる。

このようにわが国では、後期中等教育ならびに高等教育において、発達障害学生への支援は始まったばかりであり、今後の更なる情報の蓄積、有効な支援の共有が望まれる。また、高等学校から大学等への進学、そして就職先へのスムーズな移行支援も課題の一つである。

そのような状況の中で、発達障害を抱えながらも、特に非常に優れた能力を持つ学生（欧米ではこれを

1) 富山大学大学院教育学研究科／富山県立ふるさと支援学校

2) 元富山大学大学院教育学研究科

3) 富山大学大学院医学薬学研究部特命助教

4) 富山大学人間発達科学部

「二重に特異である」として“Twice-Exceptional (2E)”とよんでいる)については、その存在自体がわが国では一般には知られておらず、ましてや特別な支援が必要な対象として話題になることは無いに等しい。そこで、このような観点から発達障害のある、そして2Eの学生に対する支援を行っている事例について、先進的なアメリカ合衆国の大学における障害学生支援の現状を視察し報告する。

II. 調査研究期間および訪問先

- (1) 調査日時：平成22年10月20日
- (2) 訪問先：ケンタッキー州マーレイ州立大学
SDS (Student Disability Services)
- (3) 調査内容：
 - 10:30-11:30 SDS テストセンター訪問
Colin Lee (SDS テストセンター主任)
Cindy Clemson (SDSプログラム企画主任)
 - 12:30-13:20 大学での学習スキル (授業見学)
Loetta Gipson (学習スキル指導教員)
 - 13:30-14:00 支援機器の解説
 - 14:00-14:30 施設の概要説明
Velvet Wilson (SDS 責任者)
 - 14:30-15:20 新入生オリエンテーションの視察
Cindy Clemson (SDS プログラム企画主任)

III. マーレイ州立大学における SDS の概略

(1) センターの概観

マーレイ州立大学は、ケンタッキー州の南部にある学生総数10,000人規模の州立大学であり、2010年度には障害のある学生は508名在籍している。1993年には障害のある学生は50名未満だったことを考えると、その数は非常に増えているが、そのほとんどが発達障害の学生であり、卒業率は71%である。しかし2Eの生徒の中には、優秀表彰者に選ばれた者もいる。

障害のある学生を支援するセクションである SDS はキャンパス内の Wells Hall という建物の中にある。

マーレイ州立大学では、SDS はその前身を SSLD (Services for Students with Learning Disabilities) としており、主として LD 学生中心に支援を行っていたが、2010年1月より Velvet Wilson が新たに

専任のディレクターに就任し、SDS として組織を改め、障害学生へ総合的なサービスを提供している。スタッフは、ディレクター以下6名のプログラム・コーディネーターやスーパーバイザーを中心に、学生メンターを活用して組織的に行われている。

(2) スタッフ

以下の専任スタッフ6名が、プログラムの企画・運営を担当し、修士課程に在学中の学生をアルバイトとして採用して、学生メンターとして活用している。

- ・責任者 1名
- ・プログラム企画者 2名
- ・テストセンター主任 1名
- ・学習スキル指導教員 1名
- ・メンター制度指導教員 1名

IV. SDS での支援の流れ

(1) アセスメント

SDS でのサービスは、それぞれの学生の診断された障害に応じて行われている。専門家から提出された書類を元にカウンセリングを行い、スタッフから下記の中からサービス内容を決定するが、以下の内容に限定されるものではない。

- ①代替的なテストのアレンジ
- ②ノートテイクのアシスタント
- ③講義のテープまたはデジタル・レコーディング
- ④オーディオ・テキストブックの提供
- ⑤課題に対する特別な時間的配慮
- ⑥代替的な印刷資料の配布
- ⑦教室やコースに関するその他の配慮

(2) テストセンター (Testing Center)

SDS のサービスの中で、最も大きな位置を占めているのが、テストに対する配慮である。例えば、2010年9月のある日には、朝7時から夕方6時までに延べ43名が SDS センターでのテストの受験を予約し、欠席の2名を除いて、41名が実際にこの制度を利用した。

利用学生は、テストセンター (図1) という個別に仕切られた個室ブースに入り、アルバイトの学生メンター (後述する) が、マジックミラーで仕切られた中央通路の壁側から監督を行う。障害の程度に応じて、回答に PC を用い、スペルチェックを利用

する者、時間の延長を申請する者など、様々な利用形態があり、最盛時には1日約60名がこの制度を利用する。2011年の年度末試験期間中には合わせて約400件の利用者があったと報告されている。

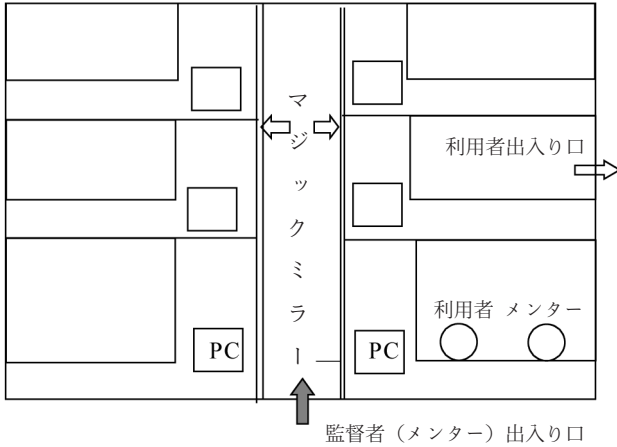


図1 テストセンター概観

また、この個室ブースは、普段は学生メンターによる個別指導に利用されている。

(3) 移行支援 (PROJECT PASS (Project for Achieving Student Success))

新入生や外国人学生に対して学生生活をスムーズにスタートできるように入学前から支援を行っていた。

- ①サマーオリエンテーション (無料)
- ②移行支援 (\$150)
- ③特別授業(無料)
- ④メンター制度

なお、これらについては、ケンタッキー州の職業リハビリテーション局が、支援対象として適格性のある学生に対し、支援サービスの支払いを負担している。

(4) メンター制度 (Project Mentor)

メンター制度は、LDやADHD、外傷性脳障害、その他の障害と診断された学生のための学問的な領域での支援である。

利用学生は、トレーニングを受けた学生(修士)メンターから希望により週に数回、個別の指導を受けるが、そのうち週に1時間は、SDSのプログラム・コーディネーターとの面談を含む。その内容は、講義の内容に関する一般的な質問に加えて、論文執筆スキル、自己主張のスキル、学習方法、ソーシャ

ルスキル、学内での他のサービスへの照会など多岐に渡っている。表1にメンター制度の利用料金を示す。

表1 メンター利用と料金

| 週当たり利用時間 | 1学期あたりの料金(\$) |
|----------|---------------|
| 1時間 | 225 |
| 2時間 | 450 |
| 3時間 | 675 |
| 4時間 | 900 |
| 5時間 | 1,125 |
| 6時間 | 1,350 |

メンター制度を活用することによって、マーレイ大学でのLD学生の卒業率が5%から55%に上昇した。このことから、マーレイ大学では、すべての新入生や在校生に対しても、週に2時間程度のメンター制度の活用を勧めている。

メンター制度に加えて、新入生オリエンテーションや、大学における一般的な学習スキルや、高度な学習スキルを学ぶプログラム、といったサービスも提供している。

(5) 支援プログラムの実際

今回の訪問では、SDSプログラム企画責任者のCindy Clemsonによる新入生オリエンテーションを見学する機会を得た。この講義では、学生本人の興味関心や適性にも触れ、将来の職業選択を踏まえた上での効果的な授業の選択のしかたについてアドバイスがなされていた。この日は「Discover Your Career ~あなたのキャリアを発見しよう~」と題して、次の3種類の指標をもとに講義が進められた。配布されたワークシート(表2)を示す。

表2 キャリア教育のワークシート

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Myers-Briggs Type Indicator <ul style="list-style-type: none"> A. あなたのタイプは? B. どんなキャリアがリストアップされましたか? • Holland Career Inventory <ul style="list-style-type: none"> A. どのような3つの文字が得られましたか? B. オンラインでテストしてみましょう。 www.roguecc.edu/counseling/hollandcodes/test.asp C. どのような3つの文字が得られましたか? D. キャリアのリストをプリントアウトして持参しましょう。 • Discover Test <ul style="list-style-type: none"> A. Discover Token を使ってみましょう。 B. 結果を印刷しましょう。 C. キャリアエリアをクリックしましょう。 D. キャリアを選択して結果を印刷しましょう。 |
|--|

表3 World of work map

| H | T | | 4 | G | 職 種 (教育) | I | A | V |
|---|---|---|---|---|--------------------|---|---|---|
| | | | 4 | G | 運動競技のコーチ | I | | |
| | | | 4 | | 保育士 (幼児./高齢者) | I | | |
| | | | 4 | G | 健康教育士 | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (成人教育) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (芸術/音楽/演劇/スピーチ) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (商業) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (小学校) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (外国語) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (幼稚園) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (健康教育) | I | | |
| | | 2 | 4 | | 教員 (保育園) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (中学校) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (特別支援教育) | I | | V |
| | | | 4 | G | 教員 (職業教育/農業) | I | | |
| | | | 4 | G | 教員 (職業教育/技術) | I | | V |
| | | 2 | 4 | | 教員 (助手) | N | | |

H：高卒資格のみ T：短大卒 2：4年制大学短期コース修了 4：学部卒 G：修士以上卒業
 職種(教育)：記入者の各指標から推奨される職業 I：興味 A：能力 V：価値感

ここで使用されている Myers-Briggs Type Indicator (MBTI) とは、ユングのタイプ論をもとにした、世界45カ国以上で使用されている国際規定に基づいた性格検査である。この検査は、単なる性格検査ではなく、MBTI 認定ユーザーの支援を受けながら、結果を元に自己理解を深めていくプロセスに重きを置いているところが特徴であるとされている。

また、Holland Career Inventory は、自分の興味に応じた将来のキャリアや大学での専攻を選ぶためのテストである。

この日の授業は、主として World of work map というソフトを用いて進められた。World of work map で「教育」という職種を検索した結果を表3に示す。

H~G は、必要な学歴を示し、I、A、V は学生が入力した興味関心、能力、価値観から推奨される職業を示す。一口に「教員になりたい」と言っても、世の中にはさまざまな職種があり必要な資格は異なる、ということを入学時に示し、学生の意識を広げる一助として活用していた。

(6) テクニカルな面での支援

身体障害の学生への車椅子等のハード面の支援は別の学内組織が担当しており、SDS における機器

支援は、学習活動にかかる支援に関するものに限定されていた。ディレクターの Velvet 氏自身も弱視であり、PC 使用時には拡大読書器を接続して利用しており、またメール等は読み上げソフトを利用していた。SDS では、さまざまな障害をサポートする機器を各種取り揃えて学生の便宜を図っていた。なお、これらのテクニカルな面での支援は、障害学生の利用は無料である。

また、大学生協で150ドル程度で市販されている Livescribe 社製のスマートペンと、専用のノートブックは、手書きで書いた文字や文章の読み上げ機能や、PC への読み込み機能があり、LD 学生の学習支援だけでなく一般学生にも大いに活用されているということであった。

V. SDSにおける2E 学生への対応—事例から—

今回の訪問では、2E (Twice Exceptional) と称される、ADHD でかつ同時に優れた才能 (Gift) を合わせ持つ学生 A の事例を紹介された。

学生 A のアセスメントに当たって準備された資料は以下の7種類である。

- ① (障害の) 適格性の評価報告書
- ②再評価の概要報告
- ③個別の指導計画

(Individualized Education Program : IEP)

- ④アチーブメントテスト, 認知テストの結果
- ⑤TCAP (テネシー州包括的評価プログラム)
- ⑥教室での観察記録 (スペイン語, 世界史)
- ⑦医師による心理評価(認知特性)に関する診断書

学生 A は, 今年度の新入生であり, 高校生である11年生(16歳)の時に ADHD の診断を受けた。医師の診断書に書き添えてある母親のコメントによれば, 学生Aは責任感があり, 自分の課題に熱心に取り組むこと, 人間関係に注意を払っていることなどポジティブな面も多いが, 同時に同性の友達との友人関係がうまくいかずストレスを感じていることも綴られていた。各種テストの結果, 認知面ではワーキングメモリが弱く, 処理速度が遅いという特徴がある。また, 学業面では数学に非常に有能な才能を示すが, 基礎的な読み書きが弱いというアセスメント結果が示されており, 医師からは「テストでは試験時間の延長を認めるように」との進言があった。

大学では, SDS のスタッフがこの報告書を元に学生 A と面談を行い, テストセンターの利用等を含めた SDS の継続的な利用を提案し, スムーズな移行支援につなげていた。

VI. まとめ

マーレイ州立大学における障害学生支援は, 法律に基づいた支援であり, 医療機関による診断と学内でのアセスメントを経て, 必要な支援が決定されるということ, また高等学校からの資料の提出などを受けて, スムーズな移行支援が行われていた。さらに, 専門家による支援と並行して, 学生によるメンター制度などピア・サポートの活用も積極的に行われていることがわかった。

わが国では, 平成23年度のセンター入試において初めて, 発達障害学生に対して, 別室受験や試験時間の延長などの配慮が行われはじめた。今後はこの制度を利用して大学に進学する発達障害学生が学業を継続できるよう, 修学支援を継続していく必要がある。これまで日本の大学における発達障害学生への支援は, メンタル面での支援に重きが置かれていたが, 今後は定期考査や通常の授業における学業上の配慮・支援に関しても制度を拡充し, 当事者の学生や教員, また保護者に対しても啓発していく必

要がある。

また, 発達障害学生は, 従来支援を受ける側として, 一般の学生よりも能力が劣る面にのみ注目されることが多かった。しかし, アメリカ合衆国では彼らの中に, 2E として特異な能力を発揮する可能性を見出して, むしろその豊かな才能・能力の方に着目し, 溢れる個性の伸張に期待を寄せて支援を行っている。このように, 従来の硬直した障害観を積極的に転換していくことも, 発達障害学生の支援を行っていく上で大切な視点であると考えられる。

その際には法整備等も含めて, 発達障害学生への支援が充実しているアメリカ合衆国等の取り組みを参考にするとところは少なくない。

文献

- 神田基史 (2009) 特集に当たって. 発達障害研究, 31(3), 143-147.
- 野口和人 (2009) 高等学校における特別支援教育の現状と課題—全国調査および訪問調査より—, 発達障害研究, 31(3), 148-156.
- 安田健 (2009) 高等学校における発達障害のある生徒への校内支援体制の構築と支援の具体的取り組み. 発達障害研究, 31(3), 157-178.
- 初谷和行 (2009) 特別支援教育の取り組みの現状と課題. 発達障害研究, 31(3), 179-187.
- 山口比呂美 (2009) 特別支援教育—0からの出発—. 発達障害研究, 31(3), 188-197.
- 上西祐子 (2009) 校内支援体制の構築と教育相談室のかかわり. 発達障害研究, 31(3), 198-208.
- 樋口一宗 (2009) 高等学校における発達障害児への支援—その課題と展望—. 発達障害研究, 31(3), 209-211.
- 原 理代・小方朋子 (2007) 高等学校における特別支援教育に対する理解—高等学校教員に対するアンケート調査の分析を中心に—. 香川大学教育学実践総合研究, 14, 31-40.
- 田口禎子・橋本創一・菅野敦・横田圭司 (2009) 東日本地域の高等学校保健室におけるメンタルヘルスや発達障害等の相談支援に関する調査研究. 東京学芸大学紀要総合教育学系, 60, 457-463.
- 小山ありさ・玉村公二彦 (2009) 高等教育における発達障害学生の支援—関西5府県における「発達障害学生支援に関する調査」を中心として. 奈良教育大学紀要, 58(1), 69-78.

斉藤清二 (2008) 「オン」と「オフ」の調和による
学生支援—発達障害傾向をもった大学生へのトータル・コミュニケーション支援—. 大学と大学生,
534, 16-22.

仲律子 (2009) 大学における発達障害学生への支援
についての一考察. 鈴鹿交際大学紀要 CAMPANA,
16, 71-87.

藤岡秀樹 (2009) 第27回研究セミナー報告 テーマ「発達障害のある生徒のキャリア教育・就労支援」. キャリア教育研究, 28 (2), 67-70.

附記

本論をまとめるにあたり、マーレイ州立大学 SDSに関する以下の資料を参考にした。

- Murray State University Office of Student Disability Services PROJECT PASS
- Murray State University Office of Student Disability Services STUDENT REGISTRATION FORM
- Murray State University Project Mentor Information Sheet

なお、本調査において得られた資料やインタビュー記録の論文への活用については、当局ならびに関係者より許可を得ている。

本論は、富山大学における研究推進事業「障害とその代償性潜在能力の生命融合科学的研究」により取り組んでいる研究成果の一部である。

謝辞

この度のマーレイ州立大学訪問に関しては、マーレイ州立大学教育学部のエリック氏に現地での日程の調整及びコーディネートを全面的に担当していただいた。エリック氏のご厚意に対して、この場を借りて感謝申し上げます。また、お忙しいところ数々の質問に丁寧にご回答くださった、ディレクターのVelvet氏を始めとして、SDSのスタッフの皆様にも感謝申し上げます。

(2011年5月20日受付)

(2011年7月20日受理)